LINEEYE

PCリンクソフト
LE-PC300F

取扱説明書

和文と英文の最新の取扱説明書は、付属のCDにpdfファイルで収録されています。
インストール時にシリアル番号の入力が必要です。
シリアル番号は、箱（およびお客様登録カード）に記載されています。

The CD-ROM attached to a product contains the newest English and Japanese instruction manuals in a PDF format. Please also refer to them.
You need the serial number when installing. You can find the serial number on the side of the box that contains LE-PC300F
(or on the card packed up with LE-PC300F).

第 4 版

株式会社 ラインアイ

● 本社　　:〒601-8468　京都府京都市南区唐橋西平垣町 39-1 丸福ビル 5F
tel:075(693)0161　fax:075(693)0163
● 技術センター :〒526-0065　滋賀県長浜市公園町 8-49
tel:0749(63)7762　fax:0749(63)4489

URL http://www.lineeye.co.jp　Email :info@lineeye.co.jp

この取扱説明書は再生紙を使用しております。
Printed In Japan
M-463KFJ/PC

目次

第1章　ご使用の前に **2**

第 2章　はじめに **3**

概要 3

商品構成 3

第 3章　起動の前に **3**

インストール手順 3

アンインストール手順 4

アナライザの設定 4

第 4章　データウィンドウについて **4**

LE-PC300F PCリンクソフトのデータウィンドウ 4

第 5章　動作環境の設定 **6**

リモート設定 6

第 6章　リモートモニター **12**

接続 12

計測器の設定 12

シミュレーションデータの設定 13

測定の開始 14

測定の終了 14

表示画面の切替え 15

測定データの読み出し 16

データの検索 16

第 7章　ビットエラーレイトテスト **17**

第 8章　キーエミュレーション **18**

キーエミュレーションの起動 18

画面イメージの取り込み 18

第 9章　テキスト変換 **19**

テキスト変換機能の設定 19

テキスト変換機能の実行 21

第 10章　波形モニターデータ **22**

第 11章　複数台のアナライザを接続する **23**

リモート設定の追加 23

データウィンドウを開く 24

リモート設定の削除 24

起動時の動作設定 24

第 12章　仕様 **25**

Copyright 2005 by LINEEYE CO.,LTD All rights reserved

第1章　ご使用の前に

ソフトウェア使用権許諾契約書

株式会社ラインアイ（以下「弊社」といいます）は、本契約書とともにご提供するソフトウェア・プログラム及び付随ドキュメント（以下「本ソフトウェア」といいます）を使用する権利を本契約書の条項にもとづき許諾し、お客様も本契約書の条項にご同意いただくものとします。

1. 著作権
   本ソフトウェアの著作権は弊社が所有しています。
2. 使用権の範囲
   弊社は、お客様が本ソフトウェアを受領し本契約に同意した日から本ソフトウェアを1台のコンピュータで使用する権利をお客様に対してのみ許諾します。よって、本ソフトウェアの第三者への譲渡、貸与、賃借は許諾しないものとします。
3. 複写・解析・改変について
   お客様が本契約書に基づき、弊社から提供された本ソフトウェアをマニュアルに規定してある場合を除いて、いかなる場合においても全体的または部分的に複製・解析・改変することはできないものとします。
4. バージョンアップ
   本ソフトウェアは、ハードウェアやソフトウェアの技術的進歩により、事前の予告なしにバージョンアップすることがあります。お客様は弊社が別途定める料金を支払うことにより、本ソフトウェアのバージョンアップ品を受取り使用することができます。なお、バージョンアップは、本契約の使用権を同意されたお客様に限られます。
5. 弊社の免責
   本ソフトウェア及び関連ソフトウェアによる生成物が、直接または間接的に損害を生じても、弊社は一切の責任は負いません。また、機器や媒体が原因の損害に対しても、弊社は一切の責任は負いません。さらに、本ソフトウェアを使用した結果の影響に関しても一切の責任を負わないものとします。
6. 一般事項
   本契約のいずれかの条項またはその一部が法律により無効となった場合は、かかる部分は本契約から削除されるものとします。
7. 本ソフトウェアのサポートについて
   弊社のサポートの範囲は、本ソフトウェアの機能、操作面、本ソフトウェアのみに起因する問題に限らせていただきます。
8. その他
   別段に定めのない事項については、著作権法および関連法規に準拠するものとします。

第2章　はじめに

このたびは「PC リンクソフトLE-PC300Fをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本ソフトを正しく効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みください。また、ご利用のアナライザの取扱説明書も合わせてお読みください。
- この取扱説明書は必ず保存して下さい。

概要

本ソフトはLE-1200/LE-2200/LE-3200/LE-7200など各種アナライザをPCから測定開始し、モニターデータをAUX ポート（シリアル）やメモリーカード経由でPC に取り込むことを可能にするソフトウェアです。

商品構成

開梱時、下記のものがそろっているか確認してください。

□ CD-ROM（ソフトウェア）　1枚
□ 取扱説明書（本書）　1部
□ お客様登録カード　1通

万一、不足品がありました場合には、お買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。お客様登録カードは必要事項を記入の上、必ずご返送ください。
ご返送いただかない場合は、バージョンアップなどのサポートを受けることができなくなりますのでご注意ください。

第3章　起動の前に

インストール手順

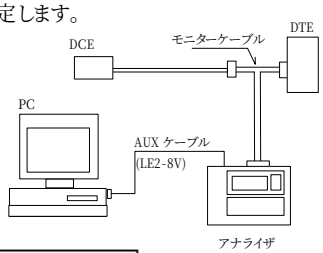
① 供給CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。
② 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
③ コマンド行に"D（ご使用のCD-ROMドライブを指定）:¥setup"と入力し、「OK」をクリックします。
④ インストーラが起動します。画面の表示に従ってインストールしてください。インストール中にシリアル番号の入力を求められます。シリアル番号は「お客様登録カード」に記載されている番号を入力します。
⑤ インストール終了が表示されましたら「完了」をクリックしてください。

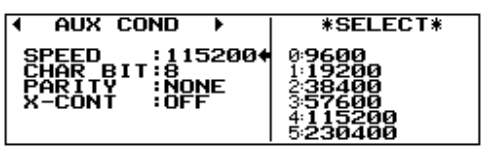
アンインストール手順

① コントロールパネルから、「アプリケーションの追加と削除」を開きます。
（ご使用のOSによっては「プログラムの追加と削除」となっていることがあります）
② 「LE-PC300F」を選び「削除」を実行します。

アナライザの設定

① アナライザを測定したい回線に接続します。
② アナライザとPCを付属のケーブル
「LE2-8V」で接続します。
③ アナライザ側のAUXポートを以下のように設定します。
（データ長は8ビット固定となります。）
＜例＞
通信速度は通常の場合115200bps
に設定します。
データ長は8ビットに設定します。
パリティはNONE（なし）を推奨します。
X-CONT（フロー制御）はOFFにします。





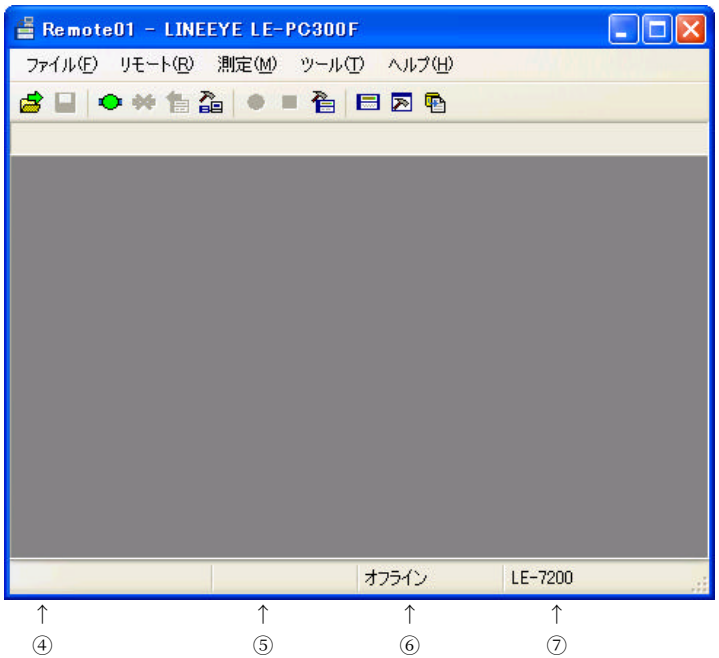
ご注意
※ LE-PC300Fを起動する前に、必ずアナライザの設定を行ってください。
※ 接続中にアナライザの電源を切断しないでください。

第4章　データウィンドウについて

LE-PC300F PCリンクソフトのデータウィンドウ

■ LE-PC300F PCリンクソフトの起動
Windowsの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」「LINEEYE」「LE-PC300F」
「LE-PC300F」を起動します。
通常、次のようなデータウィンドウが表示されます。

データウィンドウ



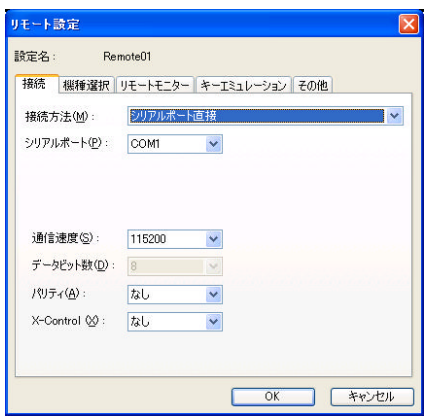
① メニュー
ここから各種操作を行うことができます。
② ツールバー
ここから各種操作を行うことができます。
③ データ表示部
測定データが表示されます。
④ データポジション表示部
データ表示部で表示しているデータのポジションが表示されます。リモートモニター中はデータの欠落回数が表示されます。
⑤ 各種状態表示部
測定状態などが表示されます。
⑥ 接続状態表示部
アナライザとのリモート接続状態が表示されます。
⑦ 機種表示部
オフライン時は設定されているアナライザ、オンライン時には接続されているアナライザの機種名が表示されます。

第 5章　動作環境の設定

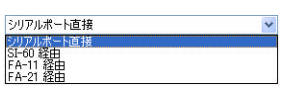
リモート設定

データウィンドウのツールバーで「リモート」ボタン（またはメニューの『リモート』→『リモート設定』）をクリックし、リモートに関する設定を行います。
リモート設定の中には『接続』、『機種選択』、『リモートモニター』、『キーエミュレーション』のページがあります。

■ 『接続』ページ
　リモート接続に関する設定を行います。



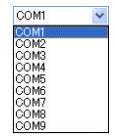
『接続方法』
次の中から接続方法を選択します。



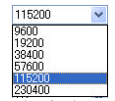
『シリアルポート直接』
　PCのシリアルポートまたはUSB-シリアル変換器（LE-US232B）等を利用してアナライザを接続する場合
『SI-60経由』　SI-60を介して接続する場合　※1
『FA-11経由』　FA-11を介して接続する場合 ※2
『FA-21経由』　FA-21を介して接続する場合 ※2

※1　変換器設定の詳細は、変換器の取扱説明書をご覧下さい。Dsub25(オス)-9(オス)変換器（LE2-8V利用の場合）もしくはLE2-8Mが必要です。
※2　シリアルデータをそのままTCPパケットに変換するタイプのものが使用できます。ただし、全てのLAN-Serial変換器を保証するものではありません。接続に関しましてSI-60以外はサポート外です）

選択した接続方法により必要な設定が異なります。
『シリアルポート』（『シリアルポート直接』）
　接続に使用するPCのシリアルポートを選択します。

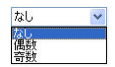


『通信速度』（『シリアルポート直接』、『SI-60経由』、『FA-11経由』、『FA-21経由』）
　アナライザのAUXポート設定の通信速度に合わせて設定します。



『データビット数』（『シリアルポート直接』、『SI-60経由』、『FA-11経由』、『FA-21経由』）
　データビット数は8に固定で変更はできません。
　アナライザのAUXポート設定も必ず8ビットに合わせてください。

『パリティ』（『シリアルポート直接』、『SI-60経由』、『FA-11経由』、『FA-21経由』）
　アナライザとの通信データパリティを設定します。
　通常は『なし』に設定してください。

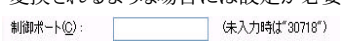


『X-Control』（『シリアルポート直接』、『SI-60経由』、『FA-11経由』、『FA-21経由』）
　アナライザとのX制御方式のフロー制御を行うかどうかを設定します。
　通常は『なし』に設定してください。

『ホスト名』（『SI-60経由』、『FA-11経由』、『FA-21経由』）
使用するLAN-シリアル変換器のホスト名またはIPアドレスを設定します。

『データポート』（『SI-60経由』）
　シリアルデータを送受信するためのポート番号を設定します。未入力時には自動取得しますので、通常は未入力の状態にしておいてください。ルーターやファイアウォール等でポート番号が変換されるような場合には設定が必要です。

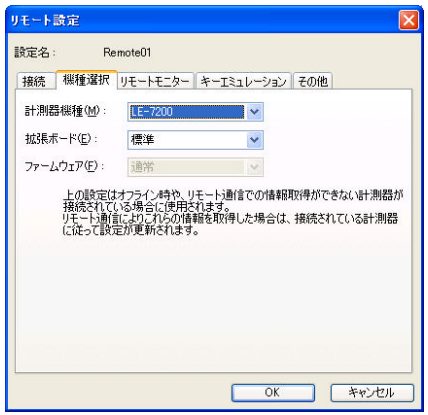
『制御ポート』（『SI-60経由』）
　SI-60の制御ポート番号を設定します。通常は未入力の状態にしておいてください。
　ルーターやファイアウォール等でポート番号が変換されるような場合には設定が必要です。



『コマンドポート』（『FA-11経由』、『FA-21経由』）
　FA-11、FA-21のコマンドポート番号を設定します。
『シリアルポート』（『FA-21経由』）
　FA-21の2ポートあるシリアルポートのどのポートを使用するかを選択します。

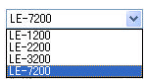
■ 機種選択」ページ

使用するアナライザに関する設定を行います。主にオフライン時に使用されますが、オンライン時にリモート通信で取得できない情報があった場合はここでの設定がそのまま利用されます。なお、リモート通信により情報が取得できた場合は、それに従ってこれらの設定は自動的に変更されます。



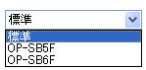
計測器機種」

対象のアナライザの機種名を選択します。



拡張ボード」

対象アナライザに装着している拡張ボードを選択します。



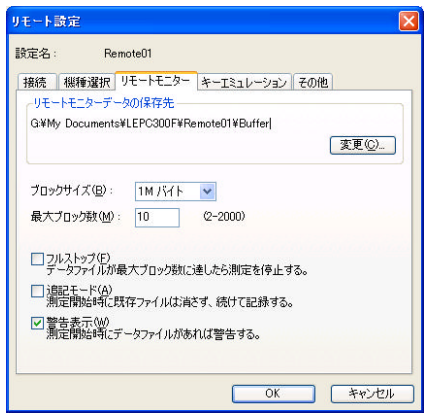
「ファームウェア」

対象アナライザでオプションファームウェアを使用した場合に設定します。

将来の拡張用で、現在は使用されません。

■ 「リモートモニター」ページ

リモートモニターに関する設定を行います。



「リモートモニターデータの保存先」

リモートモニター機能によりアナライザから受信したデータを保存するフォルダです。設定を変更する場合は 変更」ボタンを押すとフォルダ選択用のウィンドウが表示されますので、設定したいフォルダを選んで OK」ボタンを押してください。データが保存されるファイル名は 00000000.DT」から順にファイル名部分が連番になるように保存されます。

※ 専用のフォルダを指定することを推奨します。

※ 空き容量が十分にあるドライブを指定してください

空き容量が少ない場合PCの動作が不安定になる場合があります。）

「ブロックサイズ」

1ファイルあたりのデータ容量を設定します。 1Mバイト」、 2Mバイト」、 4Mバイト」、 8Mバイト」から選択できます。

最大ブロック数」

保存するファイルの最大数を設定します。2～2000まで設定できます。データファイル数がこの設定値を越える場合、ファイル名番号の若いデータファイルが削除されます。

「フルストップ」

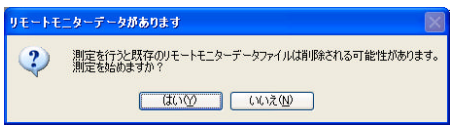
チェックするとデータファイルの数が最大ブロック数に達した時、自動的に測定を停止します。チェックを外すと、ブロックサイズを最大ブロック数で乗じたサイズのリングバッファを構成して連続測定します。

追記モード」

チェックすると測定開始時に既存のデータファイルは消さず、既存データファイルの続きの番号からデータファイルを保存するようになります。ただし、追記モードであっても総データファイル数が最大ブロック数の設定を超える場合はファイル名番号の若いデータファイル（以前の測定で保存されたデータファイルも含まれます）が削除されます。

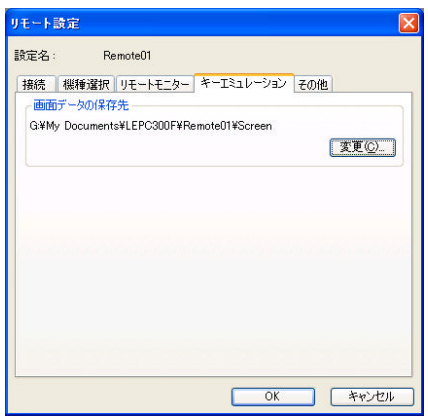
警告表示」

チェックすると測定開始時に保存先に指定されたフォルダにデータファイルが存在する場合、警告メッセージを表示します。



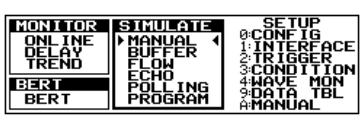
■ 「キーエミュレーション」ページ

キーエミュレーションに関する設定を行います。

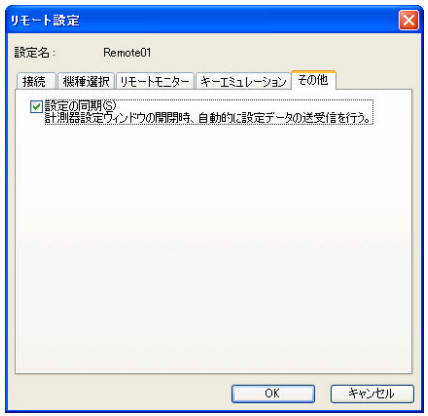


画面データの保存先」

キーエミュレーションで画面の保存を行った場合に画面イメージが保存されるフォルダです。設定を変更する場合は 変更」ボタンを押すとフォルダ選択用のウィンドウが表示されるので、設定したいフォルダを選んで ŌK」ボタンを押してください。



■ 「その他」ページ



設定の同期」

● オンライン時

チェックを入れた場合、計測器設定ウィンドウを開いたとき自動的に設定を受信し、閉じたとき自動的に設定を送信します。

● オフライン時、または測定中

チェックを入れた場合でも、設定したデータは自動的に送信されません。

☆ オンラインにして計測器設定ウィンドウを開いたとき自動的に設定を受信し、上書きされるため、ファイルとして保存しておく必要があります。

第 6章　リモートモニター

アナライザの測定を開始し、リアルタイムに表示しながら、PCのHDDに測定データを記録することができます。

接続

動作環境の設定（リモート設定）が終了したら、データウィンドウのツールバーで「ボタン（またはメニューの『リモート』→『接続』）をクリックしアナライザと接続します。アナライザとの接続が完了した時点でデータウィンドウの接続状態表示部が「停止中」、機種表示部に接続されているアナライザの機種名が表示されます。

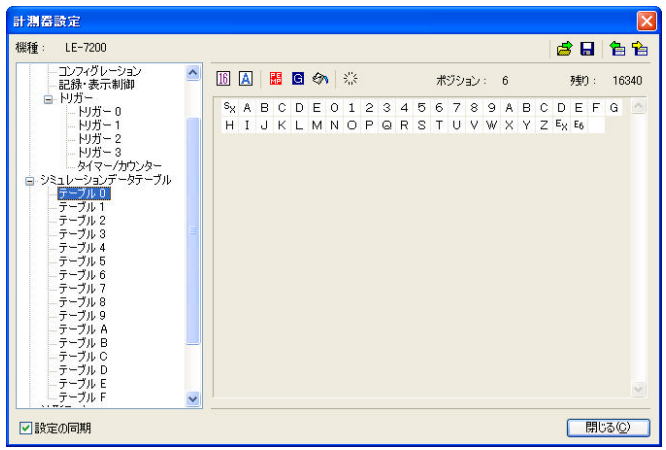
計測器の設定

データウィンドウのツールバーで「ボタン（またはメニューの『測定』→『計測器設定』）をクリックしアナライザの設定を行います。

計測器設定ウィンドウでは、ツリー上に展開された設定（ウィンドウ左側）を選択する毎に、設定内容（ウィンドウ右側）が変わります。必要に応じて各種設定を行ってください。設定内容をアナライザに送信する場合は、「を押します。逆に現在のアナライザの設定内容を受信する場合は「を押します。

シミュレーションデータの設定

データウィンドウのツールバーで「ボタン（またはメニューの『測定』→『計測器設定』）をクリックし、設定を行ないたいシミュレーションデータテーブルを選択します。



：　16進数・ASCII表示を切り替えます。

：　16進数入力・ASCII入力を切り替えます。

：　フォーカスされた文字をパリティエラー（またはマルチプロセッサビット）とします。

：　BCC（またはFCS）を挿入します。

：　「開始データ」から「終了データ」までのデータを「データ数」の文字数分入力します。
「開始データ」＞「終了データ」：「開始データ」から「1」しながら「文字数」分入力
「開始データ」＜「終了データ」：「開始データ」から「1」しながら「文字数」分入力

：　テーブル内の全てのデータを消去します。

測定の開始

データウィンドウのツールバーで 「ボタン またはメニューの 測定」→ 測定開始」)をクリックし測定を行います。測定が開始されると各種状態表示部に 測定中」と表示され、アナライザから受信したデータを順次表示します。測定中は文字サイズの変更 (」を押す)や字コード変更、16進数表示 (」を押す)、表示の一時停止 (」を押す)などを行うことができます。

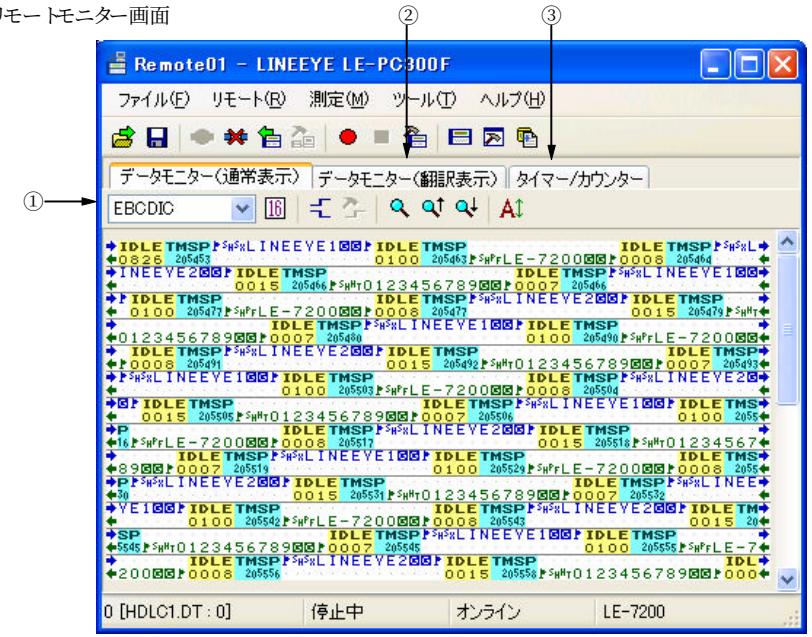
測定の終了

データウィンドウのツールバーで 「ボタン またはメニューの 測定」→ 測定停止」)をクリックし測定を終了します。測定終了後はスクロールなどができるようになります。データは自動的にリモート設定で指定したフォルダに保存されています。別名で保存したい場合は 」ボタン またはメニューの 「ファイル」→ 「データファイルの保存」)をクリックします。

測定終了時は、最後のファイルが開かれています。
全てのファイルを見る場合は 」ボタン またはメニューの 「ファイル」→ 「データファイルを開く」)をクリックして、ファイルを選択して開いてください。

表示画面の切替え

リモートモニター画面



画面の表示は以下のように切替えることができます。

- 表示コード切替え　文字コードが表示されているドロップダウンリスト (上図の①)から、表示したい文字コードを選択します。
- 16進数表示　16」を押します。 特殊キャラクターも含めて16進数で表示されます)
- 制御線情報表示　」を押します。表示したい制御線情報の変更は 」を押して制御線表示設定ウィンドウを開き設定を行います。
- 翻訳表示　データモニター翻訳表示タブ (上図の②)を押すと翻訳表示画面に切替わります。翻訳表示時にパケット翻訳が可能な場合、 」を押すことでパケット翻訳表示に切替わります。データモニター通常表示)タブを押すと元の表示画面に切替わります。
- タイマー/カウンター　タイマー/カウンター表示タブ (上図の③)を押すとタイマー/カウンター表示画面に切替わります。
- 波形モニター表示　波形モニター表示タブを押すと波形モニター表示画面に切替わります。 → 第9章 波形モニターデータ

測定データの読み出し

測定データはデータウィンドウのツールバーで 」ボタン またはメニューの 「ファイル」→ 「データファイルを開く」)をクリックして、ファイルを選択して開いてください。
複数のファイルを開いた場合、連続したデータとして表示されます。

データの検索

検索の条件は 」を押し、データ検索ウィンドウで設定します。

・検索条件

「トリガー」　トリガー条件と一致したデータ
「エラー」　パリティエラー／フレーミングエラー／BCCエラー／FCSエラー／ブレーク／アボート／ショートフレームエラー（チェックしたものと一致するデータ）
「キャラクター」　最大8文字のデータ列（ドントケア、ビットマスク指定可能）
「アイドルタイム」指定時間以上のアイドルタイム
「タイムスタンプ」指定のタイムスタンプ（ドントケア指定可能）

・検索動作

「表示」　一致したデータを先頭に表示
「計数」　一致した件数を表示

※ 検索条件の詳細については、アナライザ本体の取扱説明書をご参照ください。

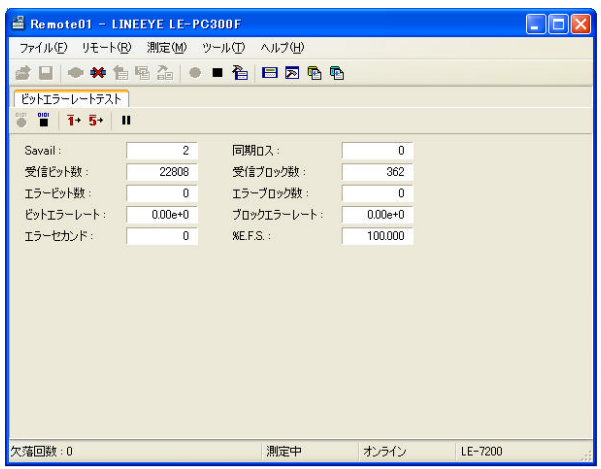
」（データの先頭方向）または 」（データの後方）を押すことでデータの検索や計数ができます。

第7章　ビットエラーレイトテスト（BERT）

ビットエラーレイトテストを選択時は、離れた場所や遠隔地の回線品質を監視することができます。

測定の開始

データウィンドウのツールバーで 」ボタン またはメニューの 「測定」→ 「測定開始」)をクリックします。測定が開始されると以下の画面が表示されます。



」ボタン　BERTを開始します。

」ボタン　BERTを停止します。（テストパターンは継続して出力されます）

」ボタン　1ビットのエラーを出力します。

」ボタン　5ビット連続したエラーを出力します。

」ボタン　表示を一時停止します。

」ボタン　リピートモードのBERT時、測定終了後に複数の結果を受信してCSV変換します。変換した結果は、BERTDATA.csvとして保存されます。

」ボタン　アナライザ本体で保存されているリピートモードのBERT結果（CFカードなどに保存）をCSV変換します。

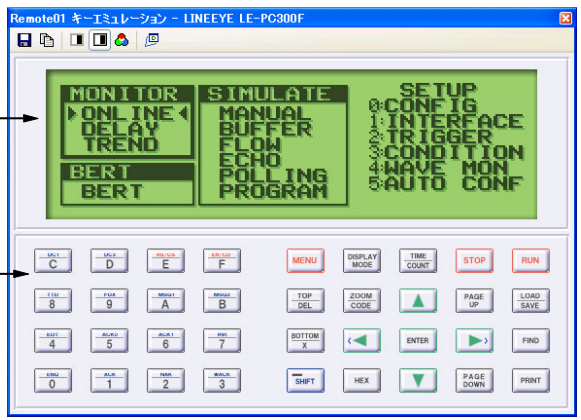
」ボタン　BERT結果を保存します。リピートモード時は最新の結果のみとなりますので「BERT結果の受信と変換」を実行してCSVファイルとして履歴を保存してください。

第 8章　キーエミュレーション

アナライザから離れた場所や遠隔地から、アナライザの遠隔操作を行うことができます。

キーエミュレーションの起動

データウィンドウのツールバーで 」ボタン またはメニューの 「ツール」→ 「キーエミュレーション」)をクリックします。



① 接続中のアナライザの画面を表示します。
② アナライザのキーをエミュレーションします。

画面イメージの取り込み

接続しているアナライザの表示画面イメージをビットマップ (BMP)ファイル形式で保存することができます。

」ボタン　現在の画面表示をビットマップファイルとして取り込みます。

」ボタン　現在の画面表示をクリップボードにコピーします。

」ボタン　ビットマップファイルをモノクロモードで作成します。

」ボタン　ビットマップファイルをモノクロモード 外枠つき)で作成します。

」ボタン　ビットマップファイルをカラーモードで作成します。

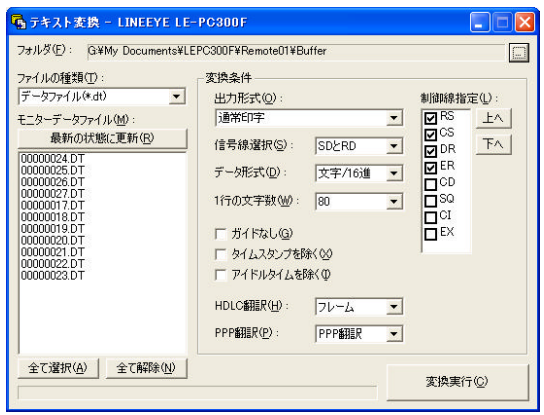
第 9章　テキスト変換

リモートモニターで測定したデータや、アナライザでメモリーカードやHDDに保存したデータをテキストファイルに変換することができます。

テキスト変換機能の設定

データウィンドウのツールバーで 」ボタン またはメニューの 「ツール」→ 「テキスト変換」)をクリックします。

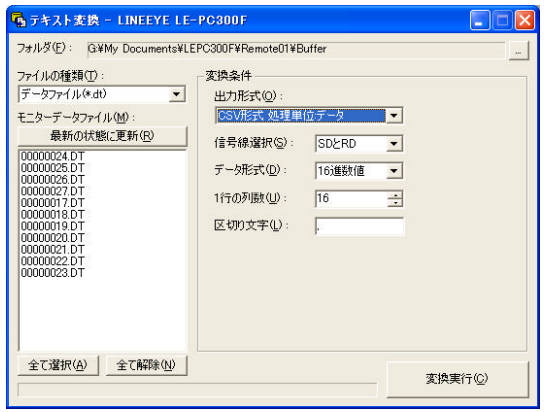
下記のテキスト変換ウィンドウが開きます。



・フォルダ
　テキスト変換を行いたいデータのあるフォルダを指定します。
・ファイルの種類
　「データ」本体オートセーブのファイル」から選択します。
・最新の状態に更新
　指定フォルダ内のファイル情報を最新にします。
・モニターデータファイル
　一覧表示から変換したいファイルを選択します。ファイルをクリックすると選択されます。
　再度、クリックすると選択が解除されます。 複数のファイルを選択することができます。
　全てを選択 解除することもできます。

・ 出力形式
　変換する形式を次項から選択
　「通常印字」（アナライザの印刷フォーマット）
　「通常印字＋ラインステート」（制御線情報を含めたアナライザの印字フォーマット）
　「翻訳印字（測定時指定）」（アナライザの翻訳印字フォーマット）
　「CSV形式　処理単位：データ（通常）」（データ毎に区切ります）
　「CSV形式　処理単位：フレーム」（フレーム毎に区切ります）
・ 行の文字数
　1行に表示する文字数を「40」、「80」、「136」から選択します。
・ データ形式
　変換するデータ形式を下記から選択します。
　「文字／16進」（文字コードと16進数値を表示）
　「文字」（文字のみ表示）
　「16進数値」（16進数値のみ表示）
・ ガイドなし
　チェックを入れた場合、通信条件などガイドなし（データのみ）で変換します。
・ タイムスタンプを除く
　チェックを入れた場合、タイムスタンプを削除して変換します。
・ アイドルタイムを除く
　チェックを入れた場合、アイドルタイムを削除して変換します。
・ 信号線選択
　変換するデータを「SDとRD」、「SDのみ」、「RDのみ」から選択します。
・ HDLC翻訳
　HDLC時、変換する翻訳形式を「フレーム」、「パケット」から選択します。
・ PPP翻訳
　PPP時、変換する翻訳形式を「PPP翻訳」、「DUMP形式」から選択します。
・ 制御線指定
　「通常印字＋ラインステート」時に一緒に表示する制御線にチェックを入れます。
　「上へ」「下へ」ボタンで表示する順番を変更できます。

CSV変換を選択した場合は、下記のウィンドウとなります。



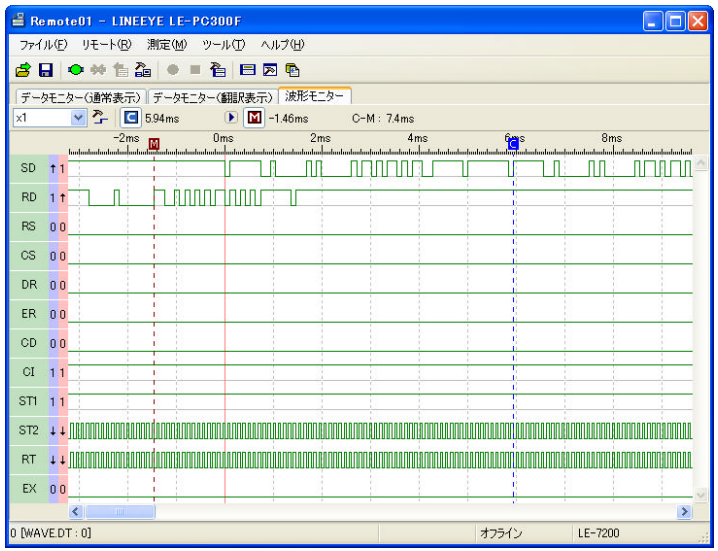
・ 信号線選択
　「SDとRD」、「SDのみ」、「RDのみ」から選択します。
・ データ形式
　「16進数値」、「10進数値」、「文字」から選択します。
・ 一行の列数
　1～255の範囲で設定します。
・ 区切り文字
　「,」などの区切り文字を設定します。
・ 信号線選択
　変換するデータを「SDとRD」、「SDのみ」、「RDのみ」から選択します。

テキスト変換機能の実行

変換実行を押します。変換元のファイルがあったフォルダに保存されます。

第 10章　波形モニターデータ

アナライザにロジアナのデータがある場合は、波形モニターデータを受信し表示します。



・表示倍率切替え　倍率が表示されているドロップダウンリストから、表示したい倍率を選択します

・カーソル表示　「C」を押します。カーソルが画面中央付近に表示されます

・マーカ表示　「M」を押します。マーカが画面中央付近に表示されます。

・時間計測　波形モニター表示画面上の「C」、「M」をマウスでドラッグし測定したい位置へ移動させます。「C-M :**ms」画面例ではC-M:74msと表示)部分にカーソルとマーカ間の時間が表示されます。

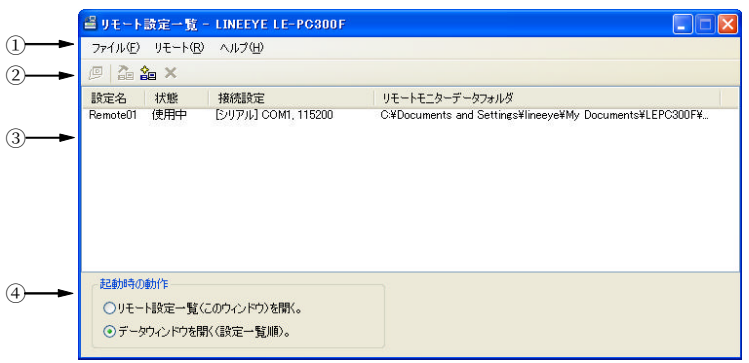
・信号線表示切替え　「」を押し、信号標準設定ウィンドウで表示する順番を設定します。

第 11章　複数台のアナライザを接続する

複数台のアナライザを同時に接続して使用する場合、その台数分のリモート設定を追加する必要があります。

リモート設定の追加はリモート設定一覧ウィンドウで行います。
データウィンドウのツールバーで「」ボタン またはメニューの「ツール」→「リモート設定一覧」)をクリックするとリモート設定一覧ウィンドウが開きます。

リモート設定一覧ウィンドウ



① メニュー
ここから各種操作を行うことができます。

② ツールバー
ここから各種操作を行うことができます。

③ リモート設定リスト
リモート設定が表示されます。

④ オプション設定
起動時の動作を選択することができます。

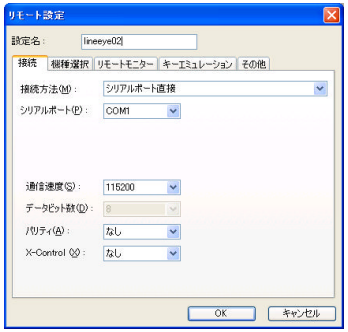
リモート設定の追加

リモート設定ウィンドウのツールバーで「」ボタン またはメニューの「リモート」→ 新規設定」)をクリックすると新しいリモート設定が追加され、リモート設定ウィンドウが開くので、必要な設定を行います。

→ 第 5章　動作環境の設定

※　リモートモニターデータの保存先として複数のリモート設定に対し同じフォルダを指定しないでください。

リモートl設定一覧ウィンドウからこの設定ウィンドウを開いた場合、設定名を変更することができます。（データウィンドウからでは設定名を変更することはできません）



このようにして、接続したい台数分のリモート設定を追加していきます。

データウィンドウを開く

リモートl設定一覧ウィンドウのリモートl設定リストから、使用したいリモートl設定を選択し（複数選択可）、ツールバーで「 」ボタン（またはメニューの「ファイル」→「データウィンドウを開く」）をクリックすると選択されているリモートl設定用のデータウィンドウが開きます。

リモートl設定の削除

不要なリモートl設定は削除することができます。
リモートl設定一覧ウィンドウのリモートl設定リストから、削除したいリモートl設定を選択し（複数選択可）、ツールバーで「 」ボタン（またはメニューの「リモートl」→「設定削除」）をクリックすると、削除確認のメッセージが表示され、そのメッセージで「OK」をクリックすると選択されているリモートl設定が削除されます。ただし、複数選択時にデータウィンドウが開かれているリモートl設定が含まれている場合、それらの設定は削除されません。すべてのリモートl設定を削除したまま終了すると、次回起動時に新しい設定（設定内容はデフォルトl設定になります）が自動的に追加されます。

起動時の動作設定

LE-PC300Fを起動したときの動作を次のうちから選択することができます。

「リモートl設定一覧を開く」
　リモートl設定一覧ウィンドウを開きます。すでにリモートl設定一覧ウィンドウが開かれている場合は、それを前面に表示します。

「データウィンドウを開く」
　データウィンドウをリモートl設定リストの表示順に開きます。すでに全てのリモートl設定に対するデータウィンドウが開かれている場合は「リモートl設定一覧を開く」と同じ動作となます。

第12章　仕様

対象アナライザ	LE-7200, LE-3200, LE-2200, LE-1200　(*1)		
接続方式	シリアル接続、LAN接続（LAN-シリアル変換器SI-60、FA-11サポート）		
接続台数	複数のアナライザと接続して同時にコントロール可能（台数はPC性能に依存）		
キーエミュレーション機能	PC上でアナライザの画面とキーを表示、及びアナライザを遠隔操作可能		
測定条件設定機能	計測条件（通信条件、トリガー条件、シミュレーションデータ）を編集、設定可能		
リモートモニター機能	アナライザの測定の開始と停止、及びPC上で計測データの表示と連続記録可能		
	記録モード	固定バッファモード：指定容量まで計測し自動停止 リングバッファモード：指定容量分の最新データをエンドレスに記録	
	記憶容量	最大16GB：1/2/4/8MB単位で、最大2000ファイルまで指定可能	
表示モード	通常表示	通信データとアイドルタイム、タイムスタンプ、制御線情報を表示	
	翻訳表示	SDLC、X.25、LAPDなどのプロトコルを翻訳表示	
	波形モニター表示	ロジアナの波形表示を拡大、縮小表示 （時間計測、信号の並び替え可能）	
	文字コード	ASCII,EBCDIC,JIS7,JIS8,Baudot,Transcode,IPARS,EBCD,EBCDIK,HEX, 16進（エラーコードも含めて16進数値表示）	
検索機能	検索条件と一致するデータを表示または計数可能		
	検索条件	指定文字列（最大8文字、ドントケア、ビットマスク指定可能） エラー（パリティ、フレーミング、BCC、ブレーク、アボート、ショートフレームの個別指定可 指定時間以上のアイドルタイム 指定のタイムスタンプ（ドントケア指定可能）	
テキストCSV変換機能	指定の記録ファイルを一括してテキストまたはCSV形式のファイルに変換可能		
画面イメージ取込機能	キーエミュレーションで表示しているアナライザ画面をビットマップファイル形式で保存可能		
動作環境	PC	DOS/V機	CPU：Pentium3　1GHz以上 RAM：256MB以上を推奨 HDD：5Mバイト＋測定データ記憶エリアの空容量が必要
	OS		Window98/98　SE/Me/2000/XP (Internet Explorer 4.01以上が必要)
構成品	CD（ソフト1枚、取扱説明書1部、お客様登録カード1枚		

＊1　OP-SB7F、OP-FW10との併用はできません。